



ひ

ら

か

た



大切な自然・生きもの



枚方
ふるさといきもの
調査 2019



ふれたい! 知りたい! 枚方の生きもの・自然

今回の調査では、「枚方いきもの調査会」及び「モニタリングサイト1000里地調査・穂谷コアサイト調査」関係団体から、調査活動の支援やデータの提供など、多大なご協力をいただきました。各団体とも、「枚方の豊かな自然を守り育てたい。」との思いは強く、日々活動に励まれています。

「身近ないきものや自然にふれたい! もっと知りたい! 力になりたい!」という方は、ぜひ各団体の活動にご参加ください。

枚方いきもの調査会

2001年の枚方ふるさといきもの調査で市民調査の参加者がつくった市民団体。「残したい枚方の自然」を合言葉に市民自らの手で市内に残る自然の調査や保護に取り組む自主的な団体です。野鳥、植物、昆虫、メダカと魚の4部会があり、枚方市内各地で調査地を決めて月1~2回程度、調査会を行っています。会員には各分野の専門家もあり、会員は約120名。ボランティア精神に基づき、会員各自の自発性と合意を基本として活動しています。

モニタリングサイト1000 里地調査・穂谷コアサイト調査

モニタリングサイト1000は、動植物の生育生息状況などを調べ続けるサイト(調査地点)を全国に1000箇所程度設け、日本の自然環境の変化をとらえ保全に役立てようという環境省の取り組みです。穂谷は全国でも最も早く、多項目を調べる「コアサイト」となった地域で、植物、野鳥、ほ乳類、水環境、カヤネズミ、カエル、チョウ、トンボなどを調べています。登録されている調査員は約50名。こちらも市民が主体の調査で自主的な活動です。

ひらかたの大切な自然・生きもの -枚方ふるさといきもの調査 2019-

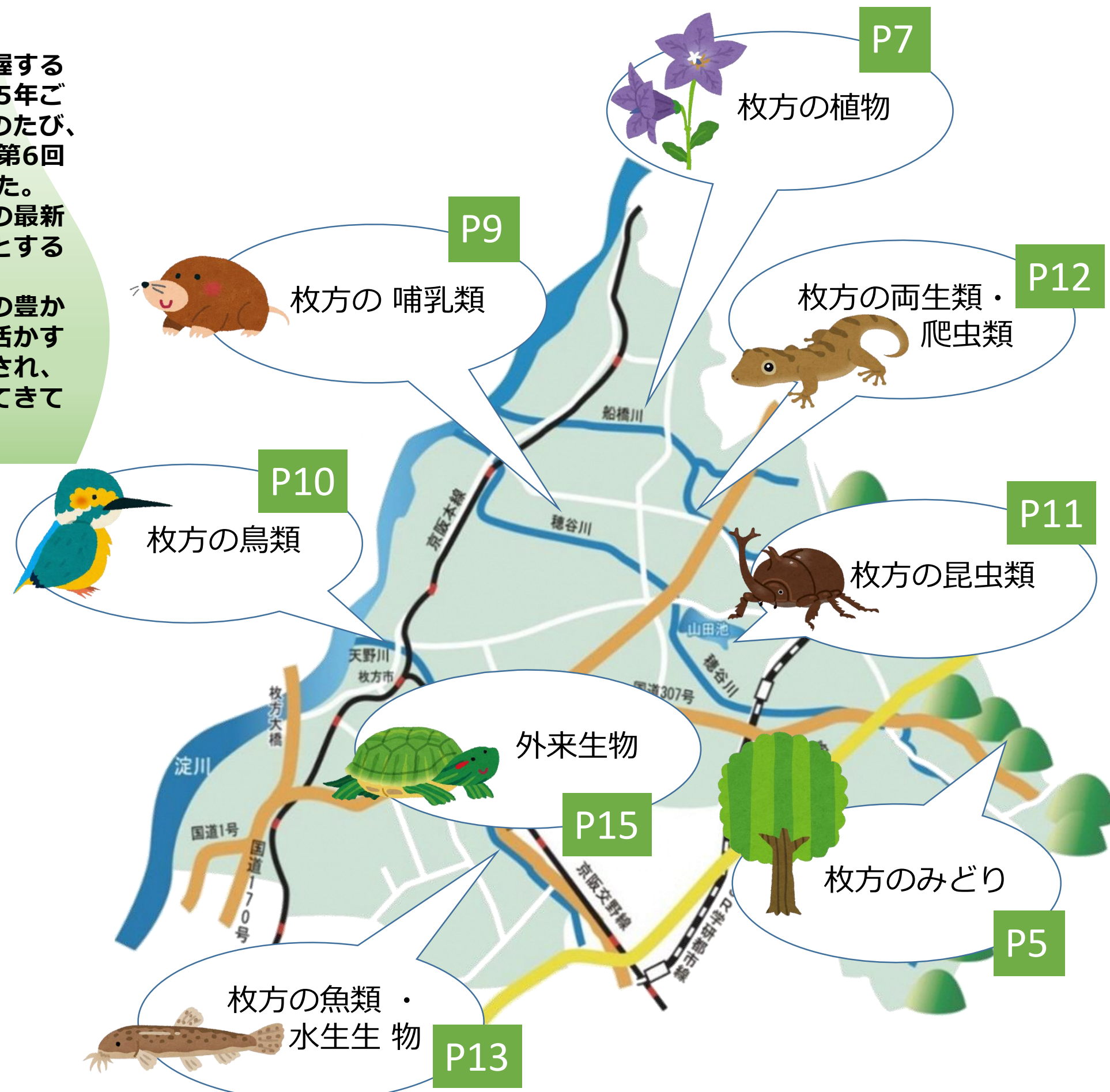
発行：枚方市 環境部 環境保全課
TEL 072-841-1221(代)
調査・編集協力：株式会社 総合環境計画
平成31年3月 発行

はじめに

枚方市では、市内の自然環境の変遷を把握するため、昭和63（1988）年からおおむね5年ごとにいきもの調査を実施しています。このたび、平成29（2017）年7月から2年をかけて第6回「枚方ふるさといきもの調査」を行いました。今回の調査は、市内の動植物や自然環境の最新情報を調べ、今後の環境施策の基礎資料とすることを目的として実施しました。平成20（2008）年には、生きものたちの豊かな個性とその恵みなどのつながりを守り活かすための法律（生物多様性基本法）も施行され、そうした取り組みがますます大切になってきています。

もくじ

01	はじめに
03	枚方の生きもの・自然・みどり
05	枚方のみどり
07	枚方の植物
09	枚方の動物【哺乳類】
10	枚方の動物【鳥類】
11	枚方の動物【昆虫類】
12	枚方の動物【両生類・爬虫類】
13	枚方の動物【魚類・水生生物】
15	外来生物
16	生きもの・自然そして生物多様性を守る取り組みへ
17	自然・みどりのネットワーク
18	わたしたちは何をすればいいの？
19	ふれたい！ 知りたい！ 枚方の生きもの・自然



生きもの・自然・豊かなつながりを守り、
次の世代に引き継ぐために

枚方の生きもの・自然・みどり

今回の調査で確認された市内の動植物の種類は以下の表のようになりました。
表の右側の数は、第1回(平成2年)から第6回(平成31年)までの「枚方ふるさといきもの調査」のデータを合わせたものです。

分類	今回の「枚方ふるさといきもの調査」のデータ		【参考】平成2年～31年の「枚方ふるさといきもの調査」のデータを合わせたもの	
哺乳類	7科	10種	13科	23種
鳥類	29科	75種	49科	216種
両生類	2科	3種	8科	12種
爬虫類	7科	9種	8科	13種
淡水魚類	11科	26種	12科	36種
昆虫類	124科	408種	232科	1319種
植物	129科	735種	159科	1347種
合計	309科	1266種	481科	2966種

参考として大阪府内全体の植物種数を紹介しますと2,436種（大阪府野生生物目録：平成12年）です。
枚方市内では、大阪府内全体の植物種の約半数が確認されており、東部の里地里山や平野部の農耕地、そして淀川などが織りなす枚方市ならではの環境を映しだしています。



穂谷川



船橋川



調査をした場所



天野川

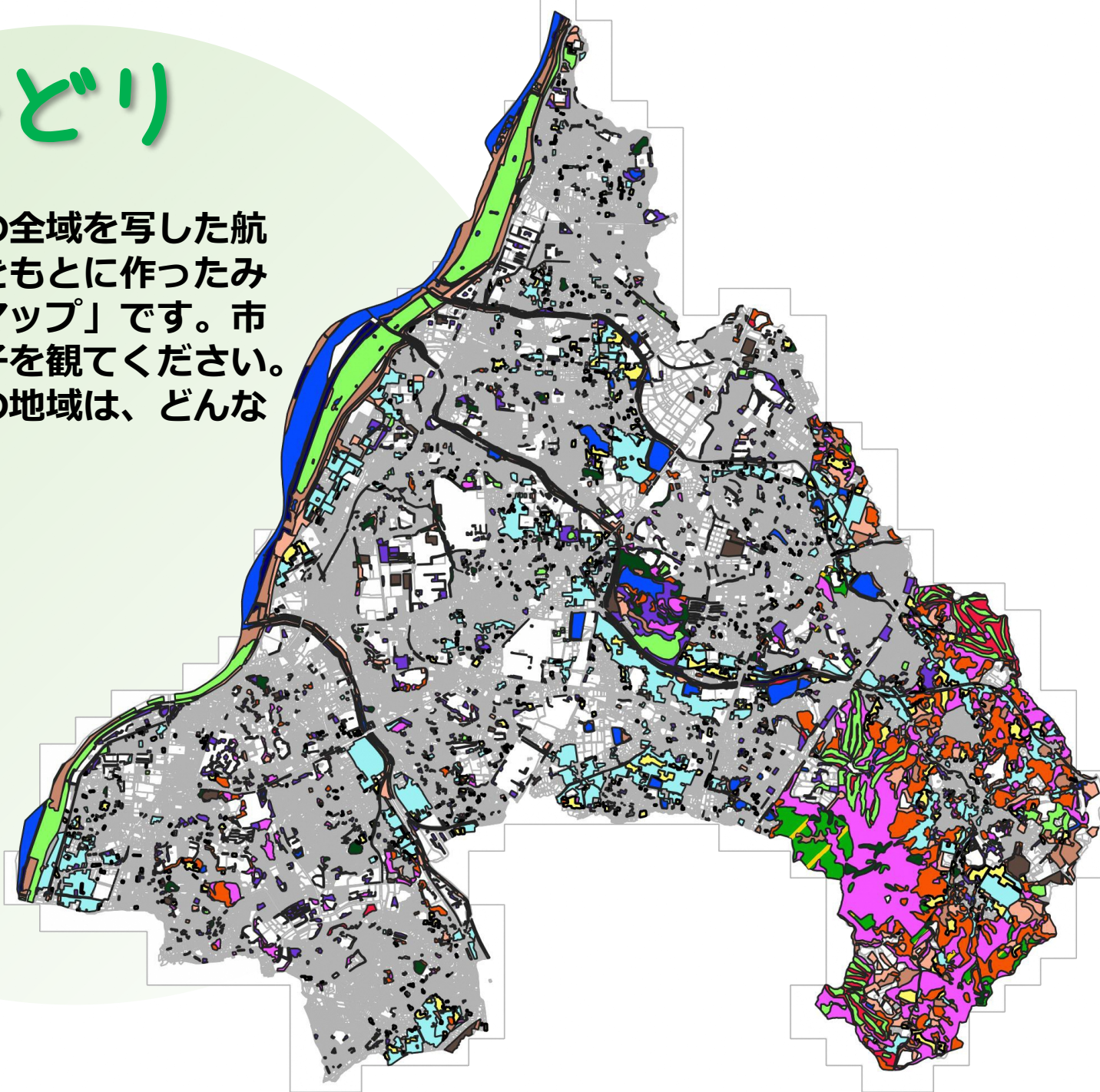


山田池公園

枚方のみどり

右の図は、枚方市の全域を写した航空写真や現地調査をもとに作ったみどりの地図「植生マップ」です。市内の自然・緑の様子を観てください。あなたのお住まいの地域は、どんな様子でしょう？

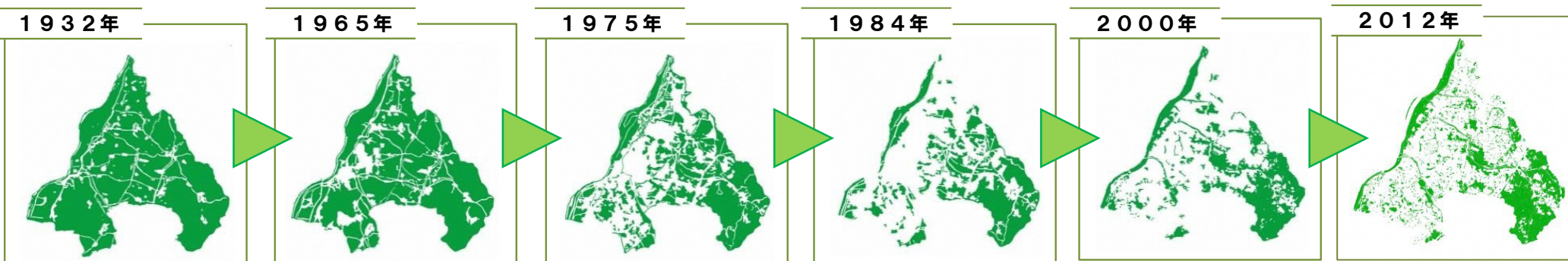
凡 例	
	コジイ林
	アラカシ林
	ヤナギ林
	コナラ林
	アカマツ林
	植林
	竹林
	ニセアカシア林
	高茎草本
	低茎草本
	芝草地
	園地型植栽
	水田
	畑地
	造成直後の裸地
	水域



みどりの今昔

枚方市の緑被面積（※）は、平成30（2018）年で約2,170haです。また、昭和7（1932）年から平成30（2018）年までの緑地の様子を見てみると、大きく減少していることがわかります。

（※）雑木林、竹林植林、園地型植栽、農耕地、草地などの緑に被われた面積



みどりの面積の移り変わり

枚方市では、近年農耕地が減り続けており、雑木林等も約30年前と比べて減少しています。一方、竹林は周辺の林へ拡大するなどの問題が発生しています。

	ha	1990年	2000年	2007年	2012年	2018年
雑木林等	600	570.8ha	495.2ha	461.7ha	480.9ha	461.7ha
	300					
竹林	300	167.0ha	221.9ha	224.8h	233.2ha	225.5ha
	150					
植林	100	68.3ha	51.8ha	54.1ha	51.8ha	53.5ha
	50					
園地型植栽	300	68.3ha	68.5ha	114.5ha	150.9ha	218.0ha
	150					
農耕地	1000	878.5ha	783.1ha	701.8ha	642.7ha	579.3ha
	500					
草地	1000	221.6h	545.9ha	510.1ha	589.2ha	632.1ha
	500					

枚方の植物

枚方の生きもの・自然を調査していく上で重要なのは、様々な動物たちをはぐくんでくれる植物です。調査では129科735種が見つかりました。過去の調査データも含めると159科1,347種にものぼります。

大切な孤立林

平野部を中心に点在する孤立林は、市街地のなかの貴重な生きもののすみか・自然、オアシスです。今回の調査では、5年前に調査した孤立林50箇所で、現在の孤立林の様子や生育する植物などについて調べました。その結果、意賀美神社や菅原神社などの社寺には、クスノキやシイの大木といった立派な樹林が多く残っていました。また、山田池公園の緑地は、コナラやアカマツが生育する明るい林となっていました。孤立林の果実や樹林空間は、鳥類や昆虫類などにとって重要であり、社寺や公園、学校などの緑地は、市民の憩いの場となっているため、これからも貴重な緑地空間として継承していくことが大切です。



孤立林ってナニ？

孤立林（こりつりん）とは、道路、住宅地、農地、商工業地などの人工物に周囲を取り囲まれ、連続した大面積の林から孤立した森林のことをいいます。近年、生物多様性保全の意識に対する高まりから、身近な自然としての孤立林が注目されており、孤立林における生物の保全に関するさまざまな研究が行われています。

植物

調査では129科735種が見つかりました。市内に残る代表的な孤立林4箇所で合計434種が確認されました。

確認された植物



スイカズラ



オニユリ



センニンソウ



ミゾソバ



カワラナデシコ



ハス

カワヂシャ



ミコシガヤ



サデクサ



オオアブノメ



ツツイトモ



ヤガミスゲ



確認された希少種

枚方の動物

哺乳類

様々な動植物をエサとして生きている哺乳類は、7科10種が確認できました。種類は山田池公園が7種と最も多く、次いで天野川が4種でした。山田池公園は、周囲に樹林が広がっており、哺乳類が生息しやすい環境となっています。希少種としては、カヤネズミ、キツネが確認されました。一方、今回の調査ではアライグマ、ヌートリアなどの外来種も確認され、生息数の増加による生態系への悪影響が懸念されます。

確認された哺乳類



キツネのような肉食が中心の哺乳類は、生息する地域の生態系の「上位種」といわれ、その生息は他の哺乳類や鳥類、爬虫類など様々な生きものに支えられています。まとめて広がる豊かな里山の生態系を特徴づけるものといえます。キツネは、穂谷川で確認されました。



鳥類

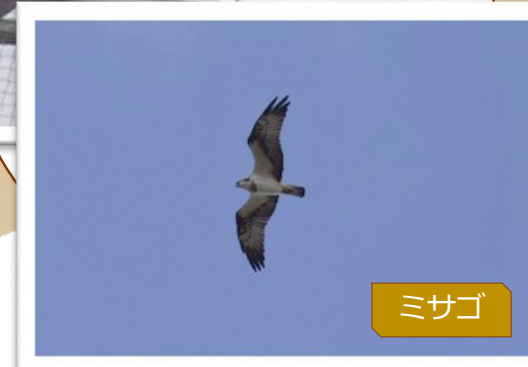
季節によって確認できる種類が大きく変わる鳥類。調査では、29科75種を確認しました。地域別では天野川が53種と最も多く、次いで山田池公園、穂谷川の順です。これらの地域で鳥類が多く確認された理由として、天野川や穂谷川は渡り鳥の飛来地であること、山田池公園は水鳥の休息地であることから、多くの鳥類を確認することができたと考えられます。

確認された鳥類

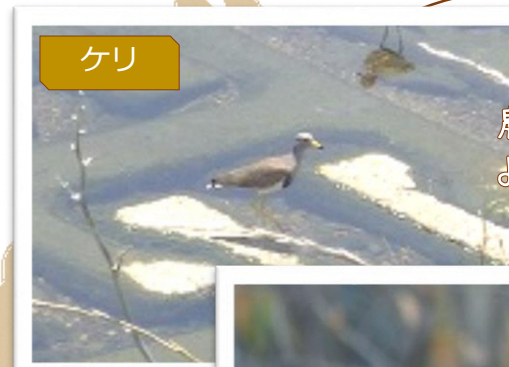
豊かな生態系の指標とされる猛禽類では、ミサゴ、トビ、オオタカ、ハイタカ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウの7種が確認されました。そのほか、水辺環境で見られるカワセミやカモ類、樹林地で見られるコゲラやイカル、畑や草地環境で見られるツグミやオオヨシキリなどが確認されました。



猛禽類



樹林地でよく見られる鳥



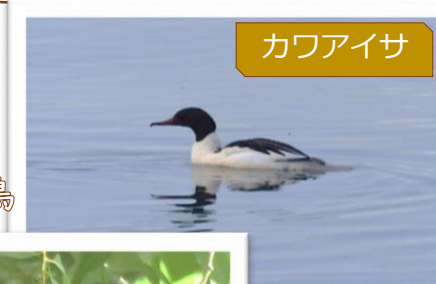
農耕地でよく見られる鳥



草地やヨシ原でよく見られる鳥



水辺でよく見られる鳥



昆虫類

動物のなかで種の多様性が高い昆虫類。調査では、13目124科408種を確認しました。いずれの調査地域も草地のほか樹林も見られるため、チョウ目や、コガネムシ類を含むコウチュウ目、セミ類を含むカメムシ目、ハチ目、バッタ目が多くみられました。地域別では、穂谷川が233種、船橋川が220種、山田池公園が159種などで、穂谷川がもっとも多くなりました。穂谷川は、上流で穂谷の里山環境と接続していることから、確認種数が多いと考えられます。また、樹林や水辺など多彩な環境がある山田池公園と同程度の種数が市内の河川でも見られたことは注目に値します。昆虫類は、過去の調査データも含めると19目232科1,319種にのぼりました。

確認された昆虫類



トノサマバッタ



ヒラタクワガタ



タイワンウチワヤンマ



アブラゼミ

ホタル・希少種



ゲンジボタル



ナニワトンボ



クロスジチャイロテントウ

ホタルは、山田池公園、穂谷川でゲンジボタルを確認することができましたが、個体数が少なかったため、生息環境の改善に向けた取り組みが大切になります。また、希少種は、ナニワトンボ、コオイムシ、クロスジチャイロテントウ、ヤマトアシナガバチなど12種が確認されています。

両生類・爬虫類

全国的に減少が懸念される両生類・爬虫類。調査ではそれぞれ1目2科3種、2目7科9種を確認しました。天野川は自然の河川形態に近い環境が残っていること、山田池公園はため池や小川などの水辺を樹林が囲んでおり、両生類の生息に適した環境が豊かなことや、両生類が豊富なためそれを餌とするヘビ類も多く生息していると考えられます。一方、他の河川では、ワンドや淵といった両生類が好む水たまりのような流れがよどんでいる環境がほとんどないため、両生類の生息数が少なく、それらを餌とする爬虫類の生息数も少なかったと考えられます。

確認された爬虫類



シマヘビ



ニホントカゲ



クサガメ

確認された両生類



ヌマガエル



ウシガエル

トノサマガエルは東京にいない？

トノサマガエルの分布は、関東平野から仙台平野を除く本州と四国および九州で、関東地方近辺には生息していません。この地域には、トウキョウダルマガエルというトノサマガエルによく似たカエルが生息しています。

希少な両生類は、トノサマガエル、希少な爬虫類は、ニホンイシガメ、ニホンスッポン。特にニホンイシガメは、周辺の樹林も生活の場とすることから、水辺と樹林の状態や環境の連続性をみるうえで重要な種です。



トノサマガエル



イシガメ

魚類・水生生物

水辺環境のシンボル、淡水魚。調査では6目11科26種を確認しました。種類は天野川が21種と最も多く、次いで穂谷川が12種、山田池公園が11種でした。これらの河川は直接淀川につながっているため、魚の行き来があることや流れでできる砂の堆積場所など環境が多様であることから多くの種が確認できていると考えられます。枚方いきもの調査会のデータも含めると7目12科45種の確認となりました。

特に天野川については、魚類の個体数が多く、過去には回遊魚で清流などにすむアユが遡上していることも確認されており、今後注目されます。



タモロコ



シマヒレヨシノボリ



カマツカ



モツゴ



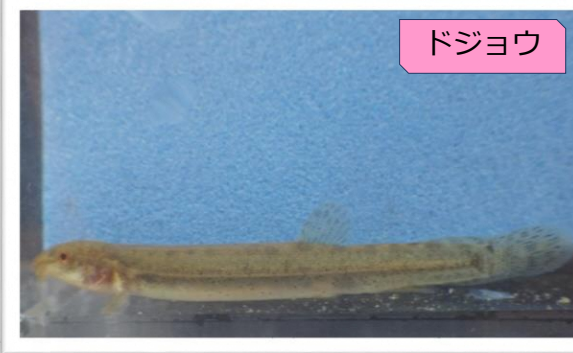
タウナギ

確認された魚類

希少種は、ゲンゴロウブナ、ドジョウ、ミナミメダカ、ギギなど9種が確認されています。



ゲンゴロウブナ



ドジョウ



ミナミメダカ



ギギ

水生生物は、11科13種が確認されました。スクミリングカイ、ヒメタニシ、カワナなどの貝類、ヌマエビ、テナガエビ、スジエビ、アメリカザリガニ、サワガニ、モクズガニなどの甲殻類でした。

確認された水生生物



アメリカザリガニ



モクズガニ

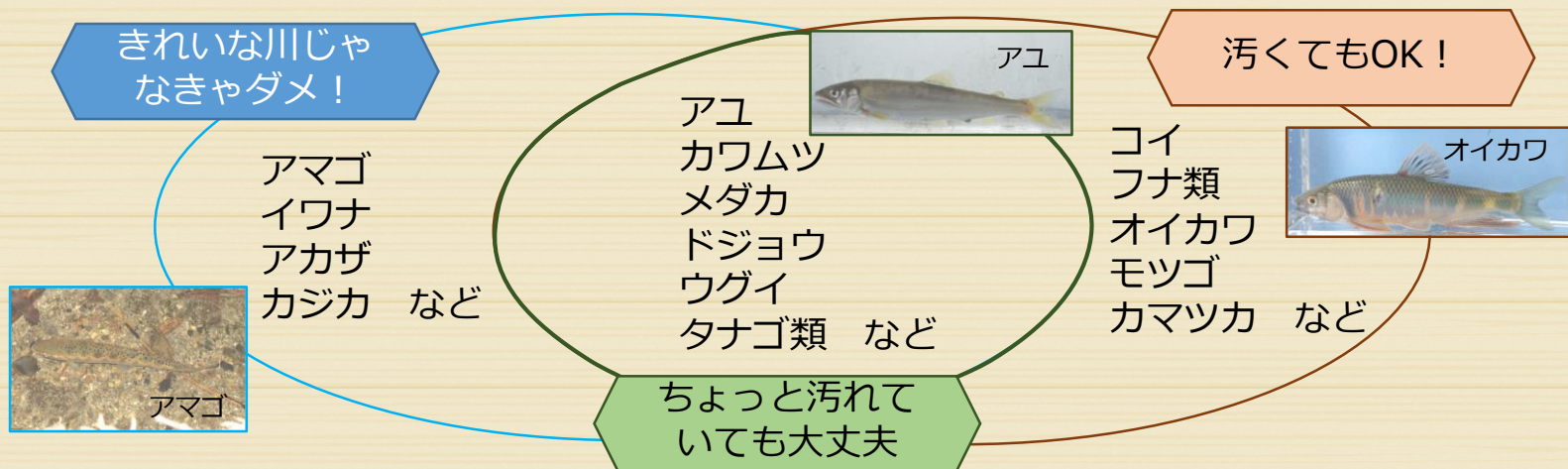
池の水ぬきました

今回の調査では、山田池の水をぬく「かいぼり」を行いました。水をぬいた後には、大きなコイやカメなど様々な生き物が確認できました。



きれいな川に住む魚・汚い川に住む魚

魚にはきれいな川でしか生きられない種もいれば、多少の汚い川でも生きることができる種もいます。今回の調査では、ややきれいな川～汚い川に生息する魚が見られました。



外来生物

いれない!

すてない!

ひろげない!



外来生物とは、もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によってほかの地域から入ってきた生物のことです。

日本の野外に生息する外来生物は、2,000種を超えるといわれています。アライグマなど、強い繁殖力や運動力などで、もともとすんできた動植物（在来生物）を食べたり、すみかを奪ったりするものもあります。

農業にも被害を与えますが、もとの自然環境を変えてしまったり、こわしたりしており、こうした状況は日本中でみられ、大きな問題になっています。

枚方市に生育・生息する主な外来種



いれない!

悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに持ち込まない。ペットは最後まで責任を持って飼いましょう。

すてない!

飼っている外来生物を野外に捨てない。飼えなくなったペットを放すことが深刻な影響を招いています。

ひろげない!

野外にすでにいる外来生物を採ったりして、ほかの地域にひろげない。エサを与えるのも避けましょう。

外来生物問題は、私たちの生活と密接にかかわっているため、市民のみなさんの理解が必要となります。

※特定外来生物を許可なく野外に放ったり・植えたり・まいたりした場合…
3年以下の懲役もしくは300万円以下の罰金（外来生物法）

生きもの・自然そして生物多様性を 守る取り組みへ

私たちへの恵みも生物の多様性から

今回の調査では合計1,266種の動植物が確認できました。こうした様々な生きものや私たち人間は、つながりあって生きており、人間もその恵みを受けて生活しています。生きものたちの豊かな個性とその恵みなどのつながりを「生物多様性」といいます。

ところが、地球上の生物の種の絶滅速度は、1600年～1900年には1年で0.25種でしたが、1975年以降、1年に4万種もの生きものが絶滅しているといわれています。日本でも野生の動植物の4分の1程度が絶滅のおそれのある種となっており、生物の多様性は危機的な状況になりつつあります。こうした危機の主な要因は、私たち人間の活動が大きな要因となっています。

枚方における生物多様性の状況

開発などによる種数やすみかの減少



1960年代以降の都市化により、森林や田畑などが大幅に減少し、動植物の生息場所が失われて種類も減りました。

人間との関わりが薄れることによる自然の荒廃



東部地域の里地里山などの林は、人の手が入らなくなってタケ類が侵入して自然環境が荒廃したり、竹林が広がり自然度が低下しています。

外来生物の持ち込みなど



アライグマやヌートリアなどにより、もともと生息している動植物が食べられるなどの影響が出ています。

地球温暖化による種の減少や絶滅など



南方系のチョウなど昆虫の確認により、地球温暖化による影響が及んでいる可能性が考えられます。

生物多様性の保全に向けた課題

生物多様性やその保全について、より多くの人に伝えて、理解してもらい、行動につなげることが必要です。

生きもの・自然そして生物多様性を守り、活かしていくには、どのような考え方や取り組みがあるのでしょうか。

様々な保全の取り組みやその活動を担う人材・仕組みを充実させるため、人づくり・組織づくりも重要です。

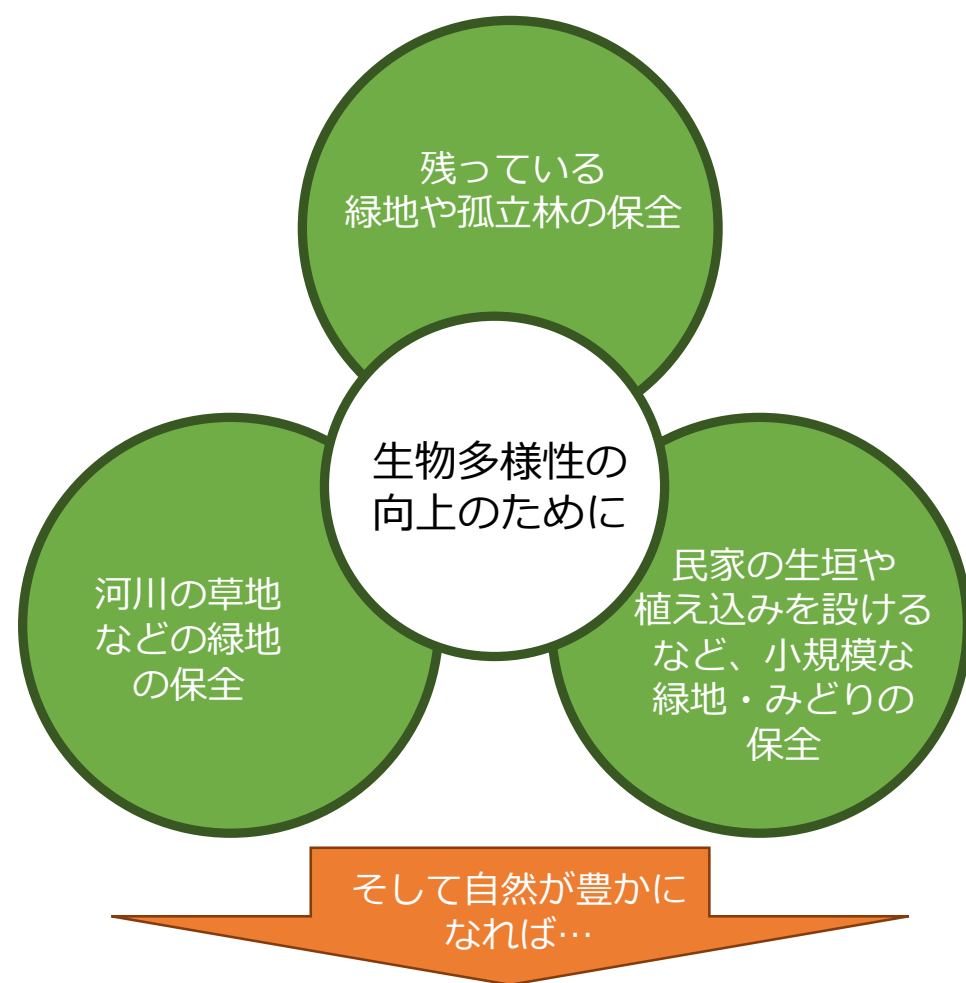
開発に対する自然の保護や里地里山の保全などの取り組みは、様々な主体が協働して行える仕組みづくりが大切です。

適切な取り組みを行うには、動植物などのデータや知識が必要です。継続的な調査活動や自然観察での情報集めなどが重要です。

生物多様性保全の取り組みは、様々な主体が情報を共有し、みんなで連携して行うことが大切です。

自然・みどりのネットワーク

生物多様性の保全の取り組みは、ほかにもあります。残された緑地を利用してネットワーク化し、緑豊かに生物多様性を高めていくことです。枚方では東部地域を除いて市街化が進んでおり、大規模な緑地があまりみられません。そこで、自然・みどりをつなげる考え方が必要となります。東部地域にはまとまった里山の樹林域が広がり、西部には淀川河川敷の河畔林などが連なっています。東・西の核となるこの樹林域をみどりのネットワークでつなぎ、山と川の交流が充実すれば、市域全体の生物多様性の向上に繋がります。みんなで協力し、枚方をより自然豊かな市に育てていきましょう。



- ＊里地里山の豊かな自然の恵みをより多く受けられる
- ＊豊かな自然・みどりのなかを散策するなどレクリエーションが盛んにできる
- ＊街中にみどりが多くなって街が涼しくなる
- ＊子どもたちが日ごろから身近な自然で遊び親しめる
- ＊森や川そして町にも、見られなくなっていた生きものたちが戻ってくる



- 生物多様性やその保全などについて、テレビや新聞、インターネット、本などで調べてみましょう。得た情報は、家族や友だち、学校、職場などに発信するようにしましょう。
- くらしの中で見たり感じられる生きものや自然を大切にしましょう。野生の生きものをむやみに採ったり傷つけたりしないようにしましょう。
- 地域で行われている自然観察会や自然体験のイベントなどに参加しましょう。枚方市では夏から秋にかけて様々な自然観察会を行っています。市民の皆様も楽しく参加できる自然調査の機会も増えています。

わたしたちは 何をすればいいの？

枚方の生きものや自然を守り伝えていくための取り組みを紹介してきました。

では、個人や家庭、事業者…私たちに何ができるのでしょうか。第一歩としては、「生物多様性」を知り、私たちも生きものや自然のつながりの中にいることを感じてください。

- 山田池公園や淀川河川公園、地域の公園などの身近な自然にふれて、どんな生きものたちがすんでいるのか観察してみましょう。自然とふれあいながら、環境学習を行うこともできます。
- 田畑やため池など身近な自然を守るため、「地産地消」をめざして、地元でとれた農作物を優先的に購入・利用しましょう。

